

阪奈機器共用ネットワーク

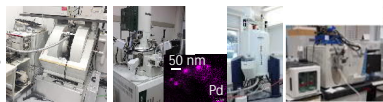
大阪 + 奈良

大阪大・大阪市立大・奈良高専

特徴と構想

• それぞれ特徴的で強みある分析機器・測定技術を持つ

(市大) 国内随一のESR群、(奈良高専) 50nm空間分解能でのSEM元素分析、XPS-UPS
(阪大) バリエティ豊かな固体用NMR、X線回折装置群、SIMS、質量分析装置群など



• バリエティ豊かな先端機器・先端測定サービス、大きなスケールメリット

合計 60機器 (13の研究室の先端測定サービス)、教職数 合計約9000名、学生数 合計約33000名

• 大阪・奈良を網羅する好適な位置関係

• 地域の公設研究機関や地元経済団体との連携

• オープンなコンソーシアム形式での地域機器共用・密接な共同運営・外部利用の促進

• 分析機器メーカーとIT技術活用・高度分析での密接な協働

⇒ 強みの機器を活かし合い、相互利用・補完することで3機関の研究力向上・研究効率化

⇒ 大学・企業にも利用開放することで地域の研究開発力強化・効率化、日常的な産学官連携を促進

⇒ スケールメリットを活かした共同人材育成・共同教育研究支援が可能となる

⇒ 将来的に、関西における

「アカデミック分析ソリューションの基幹」

「機器利用による日常的な産学官連携の基幹」となることを目指す

実施内容

1. 阪奈機器共用コンソーシアムの設立

大都市圏では例がない、国立大・公立大・高専の密接かつ実効的な機器共用連携
将来的には、地域の大学・民間企業へも拡大

2. 統一Webサイト・統一窓口設置、共同対応による最適振り分け

将来構想実現のため実効的・継続可能な運営体制の構築。公設試との役割分担

3. 研究室先端測定サービス・名誉教授による高度解析サービス

大学・高専が持つ高度な知識・技術に手軽にアクセス、日常的な産学官連携の手立てに

4. スケールメリットを活かした共同人材育成・教育研究支援

eラーニング教材の開発、相互融通・相互利用

5. 強みある機器の更なる汎用化・高機能化

更に利用し易く、より高度な分析を実施

6. リモート測定を活用した高度分析の実現・効率化テスト

更に高度な分析を、遠隔地にある先端機器をリモート測定で実現

